



## 5年生道徳の授業

今日31日(火)の5時間目に、5年2組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「くずれ落ちただんボール箱」というお話でした。

あらすじ「『わたし』は友達の友子さんとショッピングセンターへ買い物に出かけた。そのとき、男の子が積んであった段ボールに触って走り出し、段ボールは崩れた。男の子のおばあちゃんは、段ボールを片付けようとするが、走り去った男の子を気にしているので、わたしと友子は、代わりに片付けをした。すると、店員さんから、怒られてしまった。その後、おばあちゃんが男の子と帰ってきて、お礼を2人に言った。「いいえ、いいんです。」と言って2人は立ち去った。後日、学校にお礼の手紙が届いて、校長先生が全校の前で読んだ。それは、ショッピングセンターの方からで、事情を知らず一方的に怒ったことのお詫びと、感謝の手紙だった。」

今回の授業のねらいは、「誰に対しても思いやりの心をもって親切にしようとする心情を育てる」というものです。高学年になると、活動範囲が広がり、人に親切にしないでわかってはいても行動に移すことを躊躇してしまう子供もいます。今回の授業は「帯西グリーン」の心「相手を思いやって親切に」に向かって子供たちの心を耕しながら、「注意されたことをおばあさんに伝えた方がよかったか?」という問いに対して、「間違っていることは訂正したい。」「言ってしまうことで親切ではなくなってしまう。」など活発な意見が出され、一人一人が自分事として考え、子供たちの多様な考えの中から「誰に対しても大切にするには」というめあてに対する答えを考えていきました。



授業の中で「誰に対しても親切をするにはどんな心が大切でしょう?」と問われると「その人にとって、それが本当によいことか考える。」「相手がして欲しいことを考えて、相手の心を読む。」と子供たちは、自分なりの価値観を出し合い、道徳的価値の本質に近付いていくような授業となりました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、全職員で授業研究会を行いました。「親切とは?」「思いやりとは?」という本質的なことから意見を出し合ったり、親切の行為をどう取り上ったりするか、など職員一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりし、明日からの自分自身の授業づくりに活かすことができました。これからも全職員で、子供たちの道徳性を高める授業づくりを考えていこうと思います。

今回も、子供たちと職員とで帯西グリーンの心を醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。5年2組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。